

中越地震

10月23日夕方、新潟県中越地方を震度7の激震が襲いました。各所で大規模な崩れや洪水などが起こり、その後も余震が続く中、多くの方が避難生活を強いられています。現在ではだいぶ余震も収まったようですが、今も尚、避難生活を送っておられる方も、少なくないとお聞きしております。被災された地域の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

丁度、同日大沢野の本修寺の入寺式で、本壽寺の息子さんが入寺された日でもあり、新潟方面 特に見附・長岡方面からご親戚の方々がいらっしやっています、午後2時頃、祝宴も終わり、新潟への帰り道でこの災難にお遭いになられた方もいらっしやいました。後日、心配で電話してみると、「幸い怪我などはなかったが、おいてあるタンス等は全て倒れ、壁には修復不可能と思えるヒビが入り、お墓の80%は倒壊した」とのこと。「午前中には万歳して、家に帰ったら地獄だったよ。」と語られていました。

また、先々週、所用があり、北陸自動車道で長岡付近を通ると、通行は出来たものの、ある法定速度以下のスピードで走っても車がぼんぼん跳ねるような感覚でした。本来はまっすぐに見えるべき、車線のラインも心なしかグニャグニャ曲がって見えました。地震のものすごさを痛感いたしました。

そのような中、全国各地からたくさんの方々が駆けつけ、食事の世話や片付けに、送られてきた大量の物資の仕分けにと活動している様子をテレビ等を通じて見ていますと本当に心強い限りです。

法華経の教えの1つに、菩薩行と言う修行が説かれています。菩薩行とは、自らは仏様の悟りを求めて修行に励むかたわら、苦しみ悩む衆生（一般の民衆）の為に救いの手を差し伸べる生き方をすることで、布施行もその実践の一つになります。布施とは、金銭でも物でも、言葉でのアドバイスでも体を使っての奉仕でも、何でも自分にできる施しを行って、特に見返りを求めない行為です。

ボランティア活動はまさしく人々の善の心による、何の見返りも求めない奉仕行為であり、布施行（菩薩行）といえましょう。このような活動の輪がますます広がって、安らかな暮らしやすい世の中になってくれれば・・・と願うばかりです。

人間はやはり非力です。いつもいろんな力を振りかざして生きていますが、どこまで行っても非力、力が全く及ばないことであります。とりわけ、我が身かわいさのあまり、自分自身や家族が安穩ならそれでよいとの風潮が多い、最近のこの世の中でのボランティア活動の大切さ教えていただいた、今日この頃でした。

皆様にとって平成十七年が幸多き年になりますように。

合掌

平成17年 年忌表

1 周忌	平成16年	1 7 回忌	昭和64年	3 7 回忌	昭和44年
3 回忌	平成15年	2 3 回忌	昭和58年	4 3 回忌	昭和38年
7 回忌	平成11年	2 7 回忌	昭和54年	4 7 回忌	昭和34年
1 3 回忌	平成 5年	2 3 回忌	昭和48年	5 0 回忌	昭和31年

長蓮寺の基礎知識Q & A

Q：御朱印について教えてください



現在、寺院や神社等に参詣され、「御朱印をお願いします」というと、ほとんどの寺院・神社では、寺（社）名の入った朱の印を中央に押し、名と、参拝日を墨書きしていただけます。

先日、檀信徒懇談会でも話題になりましたので、その時に岩瀬の上行寺の御前様が懇切丁寧にご説明されていたのをおききになられた方もいらっしゃると思いますが、お聞きになられなかった方のためにお話しいたしたいと思います。

本来、寺院に参拝した折に写経した経文を納め（納経）、その証として寺院が授与していたのが御朱印です。

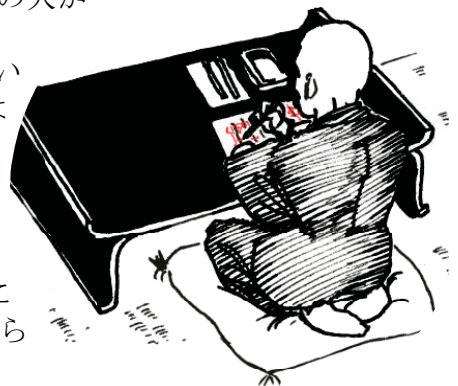
（写経をされて、それをお寺に収めたときに、寺が写経されたしるしとして、年月日と朱の印を押ししたものを差し上げました。）

神社でも、参拝者が御祭神に参拝の所願や真心を表すことに対して神印が与えられました。

しかし現在では、時の流れにより納経せずとも朱印料を支払えば頂くことが出来るため、本来の意味を履き違え、参拝の記念として、ましてや観光地のスタンプと意味を同じにとっていらっしゃる参詣者も少なくありません。「御朱印」を「御集印」と間違えて認識されている方もいらっしゃいます。

以前、東京のお寺（巢鴨 本妙寺）においていただいていた時も、千葉周作や本因坊家等の有名なお墓があり、沢山のお参りの方がいらっしゃいました。その参詣の方々も一様に必ず、御朱印を希望され、多いときは一日に数十枚の御朱印を書いた憶えもあります。「御朱印お願いします」と言った丁寧な口調で申し込まれる方もいらっしゃるのですが、中には「これ、書いて！」とポンと御朱印帳を預けられる方も少なくありませんでした。

芸能人やスポーツ選手などを偶然見掛けた一般の人がサインをしてもらおうと思って、色紙などを差し出す・・・という光景を見たことがあります。いくら「急なことで色紙など用意していない」とはいつても、「代わりの紙なら何でもいいや」と言っていて「弁当の包み紙に書いてください」等では、書く方の立場で考えれば、決して気分のいいものではありません。これで、その選手がサインを断りでもすれば「ちょっと有名だからって、天狗になっている」・・・と毒づく人もいます。悲しいものです。

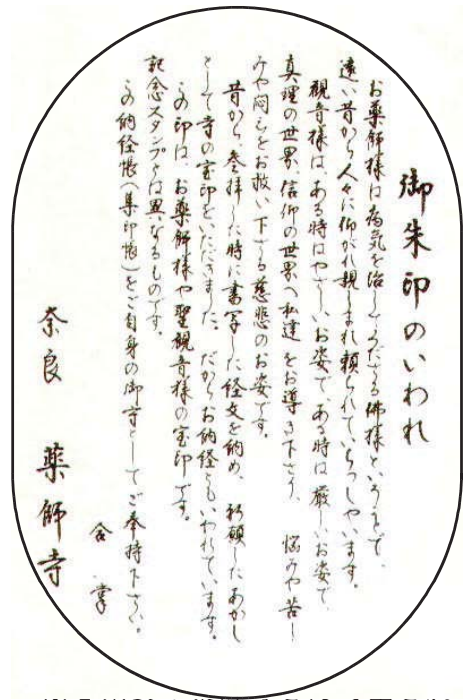


人間のするサインでさえ、こういう状況では気分よいものではないのですから、神様や仏様で

あればなおのことですね。

御朱印は、あくまでも「御宝印」であり、御名号や御尊名を記したありがたいものです。決して「サイン」や「記念スタンプ」ではありません。「素直な心さえあれば、御朱印を入れていただくものなんて、何でもいい」はずなどないのです。

あまりのマナーの悪さからでしょうか、最近では「スタンプ帳などへの御朱印はお断ります」という貼り出しされたり、「御朱印のいわれ」※1を御朱印帳に挟んでお渡しされている寺社なども数多く見掛けるようになりました。書き入れていただくのであれば、それに対する最低限の配慮や準備はするのが当たり前であり、御朱印は「拝受する」ものである・・・ということだけは、絶対に忘れたくないものです。



是非、皆様も御朱印をお願いされる際は、納経されている「御朱印のいわれ」
れなくても結構ですので、御本尊様に手を合わせてから、御朱印帳への書き入れを
お願いしていただきたいものです。

「御朱印帳」にこのいわれを挟んで渡されていた。あまりのマナーの悪さからか？



知事

先月 ここ富山県では中沖知事が6期24年間の知事職を退任され、新しく石井隆一知事が誕生されました。この「知事」という言葉も元々は仏教語でした。

ご存じのように、「知事」と言う職は明治時代に設けられた官職の一つで、紙幣を取り扱う最高責任者の地位のことでした。その後、都道府県を統括する代表者の職分となったのですが、これは元々「中国」から来たものです、その元々は仏教語

昔のインドの言葉「カルマ・ダーナ」（諸作業を進んで執り行う）から借用されたものようです。現在の禅宗の中でも修行所の事務運営の最高責任者を「知事」と言っております。

新知事にも是非、語源である「カルマ・ダーナ」でこれからの県政に手腕を発揮していただきたいと願っております。



◎ 檀信徒懇談会 in 長蓮寺

毎年、秋に当北陸教区では各寺院持ち回りで檀信徒懇談会が開催されています。本年は当山において10月2日に開催されました。当日はお天気に恵まれ、北陸教区内の御檀家さん、約80名が参加されました。

信仰体験では、当山檀徒の神尾友治さんが「仏像修復に携わって」と題し、仏像の造作や修復についての苦心される点や思い通りに完成したときの喜び等をお話しいただきました。神尾さんのお家は代々由緒ある仏師の家柄であり、皆さん、大変貴重なお話を伺ったと喜んでおられました。

その後の講演では「情けの人の為ならず」との演題で新潟市薬王寺住職の小林明雄上人が講演されました。ご存じのように小林上人は、当山 先先代 小林日要聖人のご子息であり、以前、この富山で過ごされたご経験などをふまえながら、仏教の基本的なことを本当に分かり易くお話しいただきました。

また、お昼を挟んで、午後からは恒例の座談会（檀信徒の方々から前もって寄せられた質問事項・要望等を、各寺院より応答していただく）が開かれ、難しい教学や歴史の疑問や素朴な風習にまつわる疑問など多種に飛んだ内容に各御寺院丁寧に説明され、和気会々の中、各檀信徒共、充実した一日を過ごされたようです。

この檀信徒懇談会は毎年、開かれておりますので、ご参加御希望の方は住職までお知らせ下さい。

◎ 平成十七年 年頭祈禱会・七日会・写経会のお知らせ

- 1月15日（土）午前11時より
7日会の年頭祈願会を開きます。
ご希望の方は別紙の申込用紙にご記入の上お申し込み下さい。
- 毎月7日午後2時よりお経の練習会をひらいております。
参加費無料になっておりますので気軽にお越し下さい。
- 今後の写経会は3月7日（日）午後1時を予定いたしております。